

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2024年1月17日時点)

➤ **ウクライナ軍の東部(ドネツク州)及び南部(ザポリヅジャ州)における攻勢が停滞する一方、露軍は、東部(ドネツク州及びハルキウ州)で攻勢を強めるとともに、ウクライナ全土に対するミサイル・無人機攻撃を強化している模様**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT8月18日)

: 死者約15万人 (「ウ」軍総司令官11月1日)

「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT8月18日)

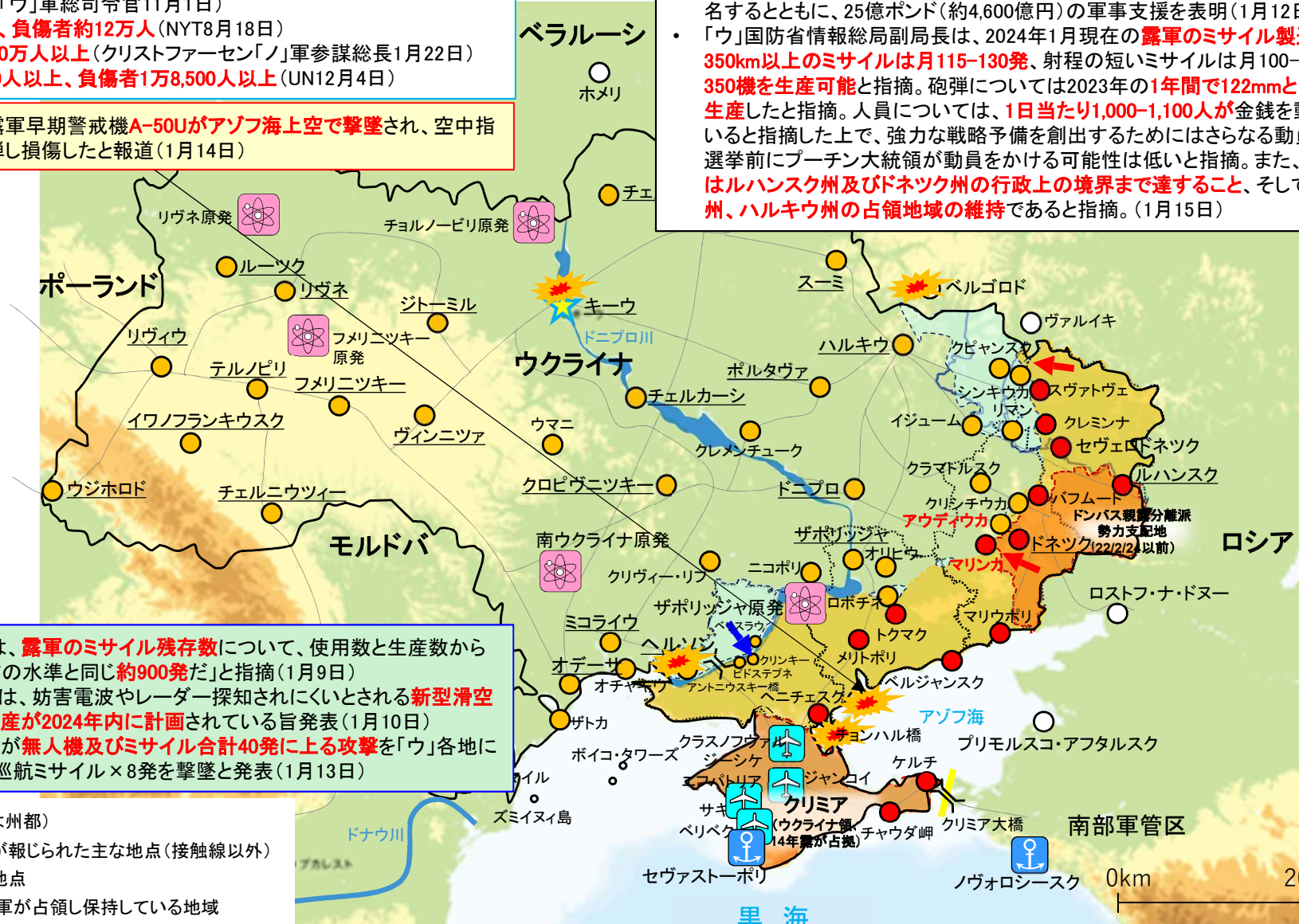
: 死傷者推定10万人以上 (クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,500人以上 (UN12月4日)

・ 「ウ」メディアは、露軍早期警戒機A-50Uがアゾフ海上空で撃墜され、空中指揮機IL-22Mも被弾し損傷したと報道 (1月14日)

・ 英首相は、1年3か月ぶりに「ウ」を訪問し、ゼレンスキー大統領と会談。情報共有、サイバー、医療、教練、防衛産業協力等、英国がこれまで行ってきた支援を正式に定める安全保障協定に署名するとともに、25億ポンド(約4,600億円)の軍事支援を表明 (1月12日)

・ 「ウ」国防省情報総局副局長は、2024年1月現在の露軍のミサイル製造能力について、射程350km以上のミサイルは月115-130発、射程の短いミサイルは月100-115発、無人機は月330-350機を生産可能と指摘。砲弾については2023年の1年間で122mmと152mm口径計200万発を生産したと指摘。人員については、1日当たり1,000-1,100人が金銭を動機として露軍に入隊していると指摘した上で、強力な戦略予備を創出するためにはさらなる動員が必要であるも、大統領選挙前にプーチン大統領が動員をかける可能性は低いと指摘。また、2024年の露の戦略目標はルハンスク州及びドネツク州の行政上の境界まで達すること、そしてヘルソン州、ザポリヅジャ州、ハルキウ州の占領地域の維持であると指摘。(1月15日)



・ 「ウ」空軍報道官は、露軍のミサイル残存数について、使用数と生産数から推計して「2か月前の水準と同じ約900発だ」と指摘 (1月9日)

・ 露企業「ロステク」は、妨害電波やレーダー探知されにくいとされる新型滑空爆弾「ドレル」の生産が2024年内に計画されている旨発表 (1月10日)

・ 「ウ」空軍は、露軍が無人機及びミサイル合計40発に上る攻撃を「ウ」各地に行い、「ウ」軍は、巡航ミサイル×8発を撃墜と発表 (1月13日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☁ ウクライナ軍が奪還した地域

国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等